



第468号 平成29年7月1日

発行所 京都市学校医会

京都市中京区間之町通竹屋町下ル

楠町601-1 こどもみらい館 2階

TEL (075) 256-0351

FAX (075) 241-3568

発行人 林 鐘 声

京都市教育委員会との懇談会

会 長 林 鐘 声

6月10日(土)、京都市教育委員会からは在田正秀教育長、福西清次体健室室長、白波瀬克則同課長、進藤幸喜同担当係長の4人が出席しましたが、教育長の他はこの4月に新任となったばかりで、相まみえての懇談会は初めてでした。私達はいつもの理事会の面々に加えて、原山憲治眼科学校医、そして有井悦子顧問の15人と今までになく数多く出席しています。京都市教育委員会の生の声を訊きたいという意気込み、期待感の現れであったように思います。

今回の話題は主に3つに絞りました。

1. 運動器検診、平成28年度の結果報告

京都市立学校約96,000人全員の検診結果の集計ができたのは、教育委員会の協力のお蔭であったことから、まずお礼を述べました。その結果分析では、整形外科項目の有所見者率は、片脚立ち不可を除いて、小<中<高と上昇していく中で、高1では一過性に低下が認められたことを紹介しました。その理由は、中3夏から高1春まで運動クラブ活動しないことにあると推測しています。更にその推測根拠を補強するものとして、バスケットボール部員では、腰痛、下肢の可動域制限、しゃがみ込み不可、野球部員では上肢の痛み及び可動域制限、しゃがみ込み不可、ラグビー部員や柔道部員では、腰痛、しゃがみ込み不可の有所見率が高いことを同時に示しました。取り組む運動種目による特徴を踏まえて、運動クラブ員に対する運動器障害の発生予防を図ることが重要であることから、教育委員会、校長会、体育連盟による運動部活動における留意事項を指導していく時に、今回の検診結果を取り入れて行くことを求めました。

2. 臨時結核健康診断について

定期健康診断終了後の海外からの転入者に対する結核検診は、翌年廻しとなっていました。今年度からは12月を目途に彼らに結核検診を行うことは既に決めています。詳細を決めるに当たっての意見交換を行いました。平成28年度でみると高蔓延国からの転入者は113人、全員がツ反検査の対象者でした。今年度からは2回に分けて行うだけです。学校医に新たな負担が生ずることは少ない筈です。稀な事例ではありますが、少なくとも2つの場合については、個々の学校医に協力をお願いすることになります。1つは、自覚症状があり結核が否定できない時は学校医の診療が必要で、特に高蔓延国からの転入者に自覚症状がある時には、速やかに診察をお願いすることになります。他に、ツ反検査対象者でありながら昨年では113人中11人が未実施のままでしたが、改めての接種指導の体制とはなっていません。彼らに対しても、今年度から自覚症状がある場合には、学校から診察の依頼が出てくることもあると思います。これから細かい所は詰めて行きます。学校保健安全法に臨時健康診断の実施項目に結核がある以上は、学校医の職務として疎かには出来ません。

3. 不登校について

学校医の関心は低くなっていますが、解決への道筋がしっかりと定められている課題となっているわけではありません。学校と医療機関の対応の足並みは必ずしも一致していないこと、背景としてしばしば認められる発達障害についての共通理解を深められていないことも課題として残っています。更には、保育園、幼稚園の時から、そのきざしのある例も少

なくないことから、その予防の取り組みも重要な課題としてあります。有井顧問には、折にふれて校医ニュースに寄稿を依頼しました。また、教育委員会は平成29年度版の登校支援ハンドブックを各学校に配布していることを知りました。学校医会にも30部送ってもらうようにしましたので、興味ある方は、事務局へお問い合わせ下さい。

4. その他

原山先生からは色覚相談事業に対する教育委員会の支援について感謝の弁がありました。耳鼻咽喉科学校医の鈴木由一先生からは、日本耳鼻咽喉科学会

の指針に基き、健診時の所見名、疾患名の一部を変更することなどの報告を戴きました。奥村先生からは、ラグビー競技会で出務した際に、頭部打撲として診た生徒が硬膜下血腫を合併していたことを、後日に偶然に知ったとの報告がありました。医務として出務した以上は、転帰についてまで報告を挙げてもらいたいものです。個人情報保護を楯に情報が秘匿されることが多い現状の不備に一言触れられたものであり、我が意を得た発言でした。

ともあれ、今年度の私達の活動の方向性が見えた懇談会になったように思います。

第68回指定都市学校保健協議会 学校医研修会「内科研修会」 運動器検診について ～「子どものロコモ」と「スマホ」との深い関係～

堺市医師会 副会長 西川正治氏の講演を聞いて

平成29年5月20日(土) ホテルアゴーラ リージェンシー堺

西京高校学校医 杉本英造

体を動かすのに必要な関節・骨・筋肉などの運動器の機能不全である「ロコモティブシンドローム」は、加齢や運動不足の高齢者に使用してきたが、「子ども」にあてはまる時代となった。スマホゲームの普及、外遊びの減少により、姿勢不良や運動不足、バランス能力・柔軟性の低下、使いすぎ症候群、運動機能不全をきたして、「子ども」がロコモになる可能性が高く、「運動器検診」はその対策となり、運動・食事・睡眠などの生活指導へとつなぐ。

堺市の運動器検診状況：対象 小学校～45385名
中学校～21982名
高校～702名

調査票チェック者；小学校～7.45%
中学校～15.73%
高校～17.81%

受診勧奨者；小学校～3.50% 中学校～6.51%
高校～6.13%

疾病・異常；小学校～0.38% 中学校～0.30%
高校～0%

脊柱側弯症；小学校～123 (0.27%)
中学校～40 (0.18%) 高校～0

高校は受診勧奨したもの、調査できていないものと思われる。

次に「子どものロコモ」の原因は「運動不足」と「柔軟性の低下」のみか？

①生活習慣の乱れに対する「食育」と「眠育」

毎日朝食摂取できない子は、できている子より学力が低い

規則正しい睡眠習慣が定着していない子は学力が伸びにくい

→自律神経機能・脳機能が睡眠欠乏により低下する 寝ない子の海馬は小さい

②最近の「スマホ子守り」について：スマホに子守りをさせない、主導権を渡さない

③スマホの何が悪いのか

「ブルーライト」の功罪

「概日リズム・サーカディアンリズム」の乱れ

④「時計遺伝子」について

「概日リズム」の乱れと運動器への直接的な影響
体内時計の中核は視交叉上核にあり、全身の生殖細胞以外の細胞に末梢時計が存在し同調して、1日24時間周期の体内リズム→概日リズムを構成してい

る。目の網膜で朝の強い光をキャッチし、その信号が視交叉上核に伝わり、眠りを誘うメラトニン分泌を抑制し覚醒。夕方暗くなるとメラトニン分泌が活発になり眠くなる。太陽光に含まれる青い光がブルーライトであり、LED液晶ディスプレイのパソコン、スマホからも発し夜間にも「朝の光」をあびて概日リズムに影響を与える。バソプレシン産生ニューロンBMAL1 (ARNTL) は細胞時計を構成する重要なタンパク質であり、Bmal1ノックアウトマウスは概日リズムが消失する。このマウスは体格が小さく、骨折修復も遅れ、骨密度も低い。また骨吸収マーカーである尿中CTXも日内変動大きく、骨に体内時計

が存在することを示唆する。概日リズムが乱れやすい職場の女性は乳がんの発生率が高く、20年以上勤務した看護師は骨形成抑制から変形性膝関節症や骨粗鬆症になりやすいデータがある。京都府立医科大学 整形外科 藤原浩芳先生のデータを引用した発表であった。概日リズムを乱すことが「子どものロコモ」誘因の可能性を示唆された。そして演者の西川先生自身がスマホ・タブレットのヘビーユーザーであり、手元にないと安心できない依存性リスクを危惧されていたことは、子どもの健康に重要な課題である。

第68回指定都市学校保健協議会 課題別協議会

第1分科会「健康教育」報告

太秦小学校校医 井本 雅美

第1分科会では「子どもが主体的に健康の保持増進に取り組むための健康教育のあり方」というテーマで発表と協議が行われました。

○主旨：自らの健康に感心をもち、健康な生活を送るための資質や能力を育成する健康教育のあり方について協議する。

○協議の視点：

- 1) 健康課題を解決するための主体的・実践的な態度を育てる健康教育のあり方
- 2) 学校・家庭・地域が連携し、実践力を高めるための健康教育の推進

○口頭提言題及び提言者

No.1 学校と家庭・地域が一体となった健康教育の推進 さいたま市立大宮南小学校

教諭 大森 多恵子

No.2 子どもが主体的に健康の保持増進に取り組むための健康教育のあり方

～学校薬剤師が取り組むことのできる活動～

堺市学校薬剤師会 中野 智憲

No.3 自らすこやかな心と体をつくる実践力をもった草ヶ江っ子の育成

福岡市立草ヶ江小学校 教諭 岡村 聡広

No.4 感染症予防に対する川崎市薬剤師会の取り組みについて

一般社団法人 川崎市薬剤師会 金子 弘之

No.5 主体的に健康な生活を実践する生徒の育成～実践化を意識した保健指導と生徒の変容を見取る手立ての工夫～

新潟市立東新潟中学校 養護教諭 片桐 直子

No.1 では、学校歯科医、歯科衛生士専門学校の先生や学生さんによる指導を取り入れるなどし、学校と家庭・地域が一体となって歯や口の健康増進を目指す取り組みについて、No.2では、学校薬剤師による「薬物乱用防止教室」の取り組みについて、No.3では「体育」「食育」「保健」の3つを中心とした健康教育の取組みについて、No.4では感染症予防の取り組みとして「正しい手の洗い方教室」を実施したことについて、No.5では養護教諭による「保健指導」についての発表でした。

大人と違って子どもは「健康の保持増進」について意識するきっかけが少ないと思われませんが、その中でいかに「主体的」「継続的」に子どもたちに実践させるか、教育する側の工夫や難しさをいつも感じます。

第2回 常任理事会

平成29年7月1日

於：事務局

出席者 林会長，杉本専務理事，東道・大久保・山内・安野・川勝・西村・中嶋各常任理事，佐野眼科学校医会副会長，鈴木耳鼻咽喉科専門医会理事，長村監事

・会長挨拶

<報告事項>

1. 中京西支部会 6/3 於：天ぶら吉川
2. 第34回 京都府歯科保健文化賞 6/4
於：みやこめっせ 長村先生
3. 色覚相談 6/6, 6/13, 6/20, 6/27
4. 精神衛生研究会 6/8
5. 京都市教育委員会との懇談会 6/10
於：懐石 近又
6. アレルギー相談 6/15 大久保先生
7. 三師会 6/17
於：京都ホテルオークラ ピトレスク
8. ツベルクリン反応検査 6/12～ 於：各会場
こどもみらい館：接種 6/28
判定 6/30 川勝先生
京都市総合教育センター：接種 6/14
判定 6/16 林先生
9. 「薬物乱用防止教室」実施に向けての研修会
6/27 於：京都市総合教育センター
10. その他

<協議事項>

1. 伏見工業高等学校(定時制) 総括産業医について
2. 平成29年度 校園長会との懇談会・養護教育研究会との懇談会 協議事項について
3. 京都市学校保健・学校安全功労者表彰
表彰者選出について
4. 全理事会議案について
5. 平成29年度 京都府予防接種研修会について
9/28 於：京都府医師会館
6. 会誌原稿について
7. その他

<関連学会・各種協議>

1. 南支部会 7/1 18:00～ 於：リヴ・ゴッシュ
2. 京都市学校保健会 第1回理事会・評議員会
7/11 於：京都市総合教育センター
3. 色覚相談 7/11, 7/18, 7/25
4. 精神衛生研究会 7/13
5. 一般社団法人京都府医師会
会長交替披露パーティー 7/16
於：ホテルグランヴィア京都
6. 校園長会との懇談会 7/22
於：シェ・カワセ
7. 京都市中学校選手権総合体育大会 柔道種目
7/22 奥村先生, 7/23 児嶋貴久先生
於：京都市武道センター
8. 第31回 京都市小学生水泳記録会 8/2
於：京都アクアリーナ 奥村先生
9. 第39回 近畿学校保健連絡協議会 8/3
於：奈良県奈良市 林先生
10. 全理事会 8/5 17:30～
於：料理旅館 白梅
11. その他